

感情のトリセツ

～競争社会が生む自己ギャップと精神衛生～

S.M. <社会②>

1.はじめに

今日において、日本ではこころの病を患う人が増えてきていることが、一つの社会問題になりつつある。平成29年に行われた厚生労働省による患者調査からは、平成11年から平成26年にかけて気分障害、所謂こころの病気が増えてきていることが分かっている。気分障害とは、気分の変動によって日常生活にさまざまな支障をきたす病気の総称で、一日中気分が落ち込んでいる、何をしても楽しめないといった精神症状とともに、眠れない、食欲がない、疲れやすいといった身体症状なども現れる。

2020年に国際統計・国別統計専門サイトが行った各国の人口10万人当たりの年齢調整自殺者数から見た世界の自殺率の国別順位の調査によると上位10か国はすべて先進国であることがわかる。

今回の研究において先進国とはOECDに加盟する38か国と定義する。OECD加盟国はいずれも経済成長、貿易自由化、途上国支援を担う国であるため経済活動が活発で、国際競争力の強い国であり、先進国といえる。先進国に自殺が多いこと、近年、日本で気分障害が増えてきていることから、気分障害の原因は競争社会にあるのではないかと考えた。

また、その理由は先進国では、個人というものが重視されるからだ。例えば、先進化する前の日本では、多くの人は実家の事業を継いでいたので個人の能力はあまり関係なかったが、現代のように就職となると家系などは関係なく個人として評価される。その結果、自身でなにかしら優れた能力を身につける必要が生まれた。さらに、能力の優れている、劣っているという評価には明確な基準がなく、相対評価であるため競争が生まれる。

人は競争の中で理想、目標、期待を立てる。そして、理想、目標、期待などと実際の結果の間に差が

生まれる(本研究では理想、目標、期待などと実際の結果の間に生まれる差を自己ギャップと呼ぶ)。

私はこの自己ギャップが大きければ大きいほど鬱になりやすいのではないかと仮説を立て、自己ギャップとこころの病の関係を明らかにして、超競争社会の中で劣等感を感じずに生きていく方法を見出す。

2.研究

2.1 自己ギャップと対人関係、自尊心

自己ギャップと日常生活や人の性質との間にどのような関係があるのか調べたところ、自己ギャップと対人関係、自己ギャップと自尊心の関係について2つのことが分かった。

1つ目は、自己ギャップの大きい、小さいに関わらず、自己ギャップがあると「落ち込む」ということを認知することで、人見知りの傾向や対人緊張が高まることがわかった(牧・坂井 2017)。

2つ目は、自己ギャップと自尊心との関係性を検討すると個人が重要視している分野では、自己ギャップが大きくなると、自尊心が低くなる、強い負の相関関係が見出されたのに対して、個人が重要視していない分野では相関関係はほとんどなかった。個人が重要視している分野、重要視していない分野とは、学業・仕事、家族関係、その他の人間関係、パーソナリティ、ライフスタイル、資産・物質、身体の7領域から被験者が重要であると考える分野を指す(遠藤 1992)。

2.2 自己ギャップと心の病気

自己ギャップが及ぼす影響に関するいくつかの先行研究をもとに、自己ギャップによるこころの病気を予防する方法が分かった。

自己ギャップが大きいと感じていて、自己を認める力が低下している大学生を対象に調査を行った研究では、本人が現実自己を肯定的に評価するためには、周囲の人々がその人を認め、受け入れることが有効であることが分かった(川上・石田 2011)。

また、理想自己とは競争をするときに立てる理想、目標、期待のことである。そして、分かったことから自己ギャップの対処方法や扱い方を考察した。

3. おわりに

3.1 結論

強い対人不安、人見知りの傾向、低い自己認知・自己評価を持つ人は自己ギャップに陥りやすい。

自己受容を高めることが自己ギャップを防ぐことにつながる。さらに、自己ギャップの対処方法や扱い方としては自己ギャップの大きい、小さいに関わらず、自己ギャップがあると「落ち込む」ということを認知することで、人見知りの傾向や対人緊張が高まる(牧・坂井 2017)ことより、自己ギャップをネガティブに捉えて「落ち込む」と認知するのではなく自己ギャップを次の結果をより良いものにするためのバネと捉えることが大事であると考えた。

3.2 今後の課題

自己ギャップを軽減する方法はわかったが、自己ギャップを完全になくす方法はわからなかったのもっと海外の文献なども調べる必要がある。自己ギャップのデメリットのみに着目して探求を進めてきたが、利点にも着目して自己ギャップについてもっと多角的な視点で検討する必要があると思った。

謝辞

本研究を進めるに当たって、温かく、丁寧に指導してくださった。筑波大学大学院TAの澤井先生、丸山先生、また生活社会・教育②ゼミの仲間たちに深く感謝申し上げます。

参考文献

- [1]牧・坂井 2017 p,84 『大学生における理想自己』
現実自己のギャップの認知が自己受容・対人不安に与える影響
- [2]遠藤 1992 p,41 『自己認知と自己評価の関係』
重みづけをした理想自己と現実自己の差異スコアからの検討
- [3]川上・石田 2011 p,276 『理想自己と現実自己の
差異が自己受容に及ぼす影響を緩和する要因』

日本の食肉は本当に安全なのか ～飼料規制見直しについて～

R. Y. <社会②>

1. はじめに

幼少期から好きなお肉について探究したかったので関連した話題を調べていたところ、「致死性100%」という記事を見つけてプリオン病を知ったことがこの探究を始めることのきっかけになった。プリオン病の感染源は現在判明していないが、家畜動物の肉を利用する肉骨粉と呼ばれる飼料に利用された動物の中に感染していた動物が含まれていたことが感染源だとする説が有力である。よって、飼料規制の見直しを検討することは食肉の安全性を担保することに繋がると考えられる。具体的にはプリオン病の起源を考察した上で現在の飼料規制を見直す必要があるのか、ある場合はどこを見直せば良いのかを検討する。

2. プリオン病の現状

2.1 プリオン病とは？

脳にはプリオンと呼ばれる蛋白質が存在している。そこに異常なプリオンが入り込むことで脳神経細胞を壊し、脳神経細胞の機能を阻害し、やがて死に至る致死性の病気である。異常プリオンの特徴としてはエタノールや熱に強く紫外線処理をしても感染性が落ちないことがあげられる。プリオン病は総称であり、発症プロセスや発症する動物によって病名が異なる。例えば、牛で発生したプリオン病は狂牛病(BSE)、ヒツジやヤギ類の場合はスクレイピーと呼ばれる。

2.2 食肉の安全性を脅かした歴史

プリオン病の知名度が高まった背景には食肉の安全性を脅かした歴史にある。狂牛病の発生が1985年4月イギリス本土で散発的に確認されるようになり、狂牛病に感染した牛の肉を食べた人に感染が確認された。その後1986年にイギリス政府によって狂牛病が新しい病気として認定された。狂牛病の発生数は年々増加し1993年にはピークに達し、1995年までの間に発生数は約165000頭に達したという一連の事件がある。国際獣疫事務局は1988年に狂牛病を正式に取り上げ、1990年以降各国に発生の報告を義務づけた。この病気の感染拡大は飼料の一種である肉骨粉によって引き起こされたものであると考えられている。病気の感染についてヒトと動物の間には種の壁と呼ばれる感染バリアのようなものがある。狂牛病はこの種の壁を超えたことで恐れられるようになったのだ。

2.3 現在の飼料規制

由来動物		飼料			
		牛用	豚用	鶏用	養魚用
肉骨粉の種類	牛	×	×	×	○
	SRM※	×	×	×	×
	豚	×	○	○	○
	鶏	×	○	○	○
	魚	×	○	○	○

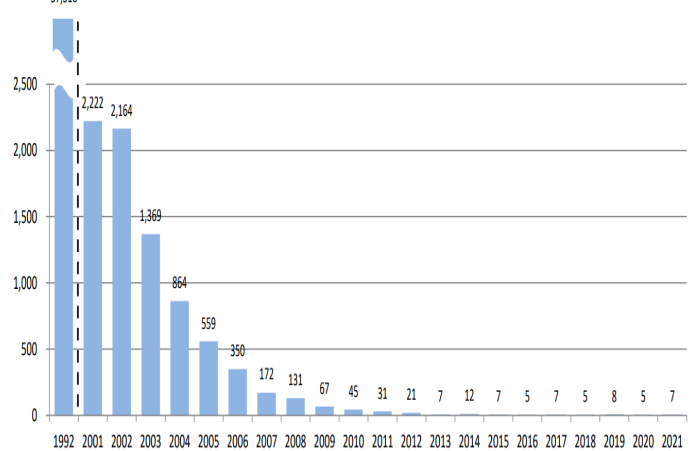
※ 日本: (全月齢)扁桃、回腸遠位部
(30か月齢超)頭部(脳、眼など)、脊髓、脊柱

○: 利用可能
×: 利用禁止

2.4 現在のプリオン病数

世界のBSE発生件数の推移

発生のピークは1992年。BSE対策の進展により、発生頭数は大きく減少



3. 仮説と調査方法

3.1 仮説

豚でプリオン病は発生する可能性がある

3.2 実験や調査内容 1

まず、文献調査でプリオン病の起源について考察、仮定する。次に飼料規制の見直しについて検討していく。

4. 整理・分析

4.1 狂牛病の起源に関する二つの説

狂牛病の起源について主に2つの説が主張されている。一つ目は羊のスクレイピーから伝播したという説で、二つ目は牛の脳に突然変異として異常プリオンが発生したという説である。今回は後者の突発的に発症するという立場から、豚におけるプリオン病の発生の可能性を示す情報を提示する。

4.2 三つの発生原因

現在、プリオン病はおもに三つに分類される。一つは特発性という突然発症するもの、二つ目は遺伝性というプリオン蛋白質自体が変異していることで発症するもの、三つ目は獲得性と呼ばれる他からの感染によって発症するものである。これらのことからプリオン病には前触れもなく突然発症するケースがあることがわかる。

4.3 豚における実験

豚を対象に2種類の非定型スクレイピーを脳内接種した結果、定型BSE(C-BSE)プリオンが脳内において蓄積が確認された。また、ブタは定型BSE(C-BSE)プリオンおよびヒツジのBSE(SBSE)病原体による非経口実験で感染が確認されている。このことから、豚はそれらの病気に対して感染する可能性があることが分かっている。

4.4 プリオン病の潜伏期間

現在までプリオン病を自然に発病した豚は確認されていない。そこで家畜豚の出荷時期とプリオン病の潜伏期間の差に注目した。狂牛病の潜伏期間は3～7年程度であ

り、スクレイパーの潜伏期間は2～5年以上である。このことから現在確認されている動物で発症するプリオン病は潜伏期間がとても長いことがわかる。これに対して家畜豚の出荷時期は6か月程度で、もし仮に感染していた豚がいたとしても目に見えて症状が現れることはないと考えられる。

5. 考察

豚でプリオン病が発生する可能性があるという仮説は上記の根拠より一致していると考えられる。しかしながらこれらの根拠はあくまで発生の可能性のみに言及しているため、今まで自然条件下で発生していなかったことから実現する可能性は低いのではないかと考える。よって、私たちの食生活に影響を与える可能性は低いのではないかと考える。

6. おわりに

6.1 結論

豚でプリオン病が発生する可能性があるのか。また、それに伴って飼料規制の見直しは必要なのかどうかを三つの発生原因、豚における実験、プリオン病の潜伏期間の三つの観点から探究した。その結果、豚でプリオン病が発生する可能性は全くないが低いと考えられる。よって、示した三つの観点の情報だけでは豚でプリオン病が発生する可能性は考慮する必要のないものであると考えられる。豚でプリオン病が発生する可能性が考慮する必要のないくらい低いことから有力な感染源とされている肉骨粉に感染した豚が混入する可能性はかなり低いと考えられるので飼料規制の見直しは必要ないと考えられる。

6.2 今後の課題

豚でプリオン病が発生する可能性を示す新たな情報を見つけること。プリオン病の研究の進捗を待ち、未解明な発生起源や感染プロセスが判明したうえでもう一度考察すること。

謝辞

探Q指導員の澤井先生、筑波大学の先生には様々なアイデアや助言をいただき探究を円滑に進めることができました。大変感謝しています、ありがとうございました。

参考文献

- [1]山内一也(2002)BSEの現状と対策
<https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2030692532.pdf>
- [2]長岡正二(2015)BSE再考
<https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2030892329.pdf>
- [3]小澤 義博(1996)牛海綿状脳症(狂牛病)の知識
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma1951/49/7/49_7_486/article/-char/ja/

- [4]プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班(2021)プリオン病のサーベイランス結果
<https://www.jichi.ac.jp/dph/wp-dph/wp-content/uploads/2021/04/20210308surveillance.pdf>
- [5]Belén Marín and Alicia Otero(2021)Classical BSE prions emerge from asymptomatic pigs challenged with atypical
<https://www.nature.com/articles/s41598-021-96818-2>
- [6]難病情報センター(2022)プリオン病(1)クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD) (指定難病23)
<https://www.nanbyou.or.jp/entry/80>
- [7]山内一也(2009)人獣共通感染症第122回プリオン病とはどんな病気か?
https://www.isvetsci.jp/05_bvouki/prion/pf122.html
- [8]厚生労働省(2022)牛海綿状脳症(BSE)について
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_irvou/shokuhin/bse/index.html
- [9]新潟県(2019)農林水産部畜産課
<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/chikusan/pig04.html>
- [10]Centro de Investigación en Sanidad Animal(2004) Subclinical Bovine Spongiform Encephalopathy Infection in Transgenic Mice Expressing Porcine Prion Protein
<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC6729370/>
- [11]東京都福祉保健局 牛海綿状脳症(BSE)とは?
<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/shokuhin/niku/bse/bse.html>
- [12]農林水産省(2019)BSEに係る飼料規制の見直し
<https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/eisei/prion/12/attach/pdf/index-10.pdf>

世界の唐揚げ ～味つけの違いからみる世界の食文化～ S.A. <社会②>

1. はじめに

食べ物の世界には、国、文化に関係なく愛されている食べ物がいくつかある。唐揚げも間違いなくその一つである。日本料理に深く根付いている唐揚げは、多くのレストランのメニュー、給食の献立にもみられる。日本では絶大な人気を誇る唐揚げだが、竜田揚げやザンギなど、日本国内でも異なる呼び名がある。同様に世界にも呼び名が異なる様々な唐揚げがあるのではないかと思った。また、料理は気候や場所によって味つけが異なることから、唐揚げも気候や場所によって味付けが変わるのではないかと考え、世界の様々な唐揚げについて調べることにした。

唐揚げとは、揚げ油を使用した調理方法、またその調理された料理を指し、食材に小麦粉や片栗粉などを薄くまぶして揚げたものである。なお、本研究においては、唐揚げを、フライドチキンも含めた鶏の唐揚げに限定する。

世界の唐揚げを研究するにあたって、まず、インターネットと本で、世界の唐揚げや、使われている調味料を調べる。次に、その国の気候や、場所に着目し、味つけとの関連があるのかを考察する。

2. 世界の唐揚げ

<日本> 唐揚げ

「揚げ」という調理法は、奈良時代に中国から伝わった。当初の唐揚げは、豆腐を小さく切り、揚げて醤油や酒などのタレで煮たものだった。現在の日本人がイメージする唐揚げが生まれたのは昭和初期である。深刻な営業不振に悩んでいた「食堂・三笠」の料理長が店を閉店から救うために考えたメニューが「若鶏の唐揚げ」であった。そして戦後、アメリカ合衆国からブロイラーが輸入されて養鶏業が広がり、鶏肉が身近で食べられるようになったことで鶏の唐揚げが一般家庭に普及した。味つけには、醤油、酒、しょうが、にんにくなど、日本の代表的な調味料が使われている。日本列島は、南北に伸びていることから、地域によって気候が異なる。ほとんどの地域が温暖湿潤気候に属し、年間を通して降水量が多い。北海道は亜寒帯に属し、冬の寒さが厳しく、梅雨はない。沖縄は亜熱帯に属し、一年中気温が高い。夏は南東から、冬は北西からの季節風が吹き、その影響で、夏は太平洋側で雨が多く、冬は日本海側で雪が多く降りやすい。

<マレーシア、インドネシア> アヤムゴレン

アヤムゴレンの歴史に関する詳細はあまりない。西洋世界がフライドチキンに熱狂するようになってから東南アジアで人気を持ち始めたと考えられている。味つけは地域によって異なるが、基本的には、ターメリック、レモングラス、エシャロット、など多くのスパイスが使われ、ココナッツオイルまたはパーム油で揚げることが特徴としてみられる。インドネシアとマレーシアはともに、東南アジアに位置する。一年を通して高温多湿であり、乾期と雨期にわかれる。

<イタリア> ポッコフリット

ブラックカルチャーから受け継がれたレシピである。味つけには、ローズマリー、オリーブオイル、白ワイン、粉チーズなどが使われている。イタリアは、地中海性気候に属し、夏は気温が高く、降水量が少ないので乾燥している。冬は夏に比べて雨が多く、比較的温暖である。

<中国> 辣子鶏(四川料理)

四川省の重慶が発祥。1987年、自宅レストランを経営していたある夫婦が、経営戦略として開発したメニューである。商品化後、すぐに人気メニューとなった。味つけには、乾燥唐辛子や花椒などが使われており、辛いことが特徴としてみられる。気候に関して、重慶市は亜熱帯性気候に属しているため湿潤である。

<オーストリア> ウィンナーバックヘンデル

オーストリアにおいて、フライドチキンは、1718年から1719年にかけて、コンラッドハガーの料理本で初めて言及された。フライドチキンは、ウィーンの貴族の間で非常に流行していた。1870年から1910年は、「フライドチキンの時代」と呼ばれており、この頃、一般人にもフライドチキンが普及したと考えられている。下味はあまりつけず、素材の良さを生かし、パセリやレモン汁を添えた爽やかな味つけが特徴である。オーストリアは大陸性気候に属し、夏と冬の気温の差が激しい。また標高が高い地域が多いため全体的に気温は低めで、夏は涼しく快適に過ごせ、冬は寒さが厳しい。湿度は低く乾燥している。

<韓国> ヤンニョムチキン

韓国における唐揚げのはじまりは、朝鮮戦争の時代にアメリカ兵がフライドチキンを持ち込んだことだと言われている。韓国では、様々な味のフライドチキンがみられるが、ヤンニョムチキンが特徴的である。ヤンニョムチキンはコチュジャン、にんにく、砂糖、その他の香辛料から作る甘辛いソースで味付けされる。韓国の南部は、温暖湿潤気候で、北部は冷帯湿潤気候である。日本とよく似ている気候だが、夏はより暑く、冬はより寒い。

<ウクライナ> チキンキーウ

チキンキーウは伝統的なウクライナ料理に起源を持ち、料理名はウクライナの首都、キーウからとられたとされているが、正確な起源は不明確である。チキンキーウは鶏の胸肉の中にバターとパセリを詰めて、パン粉で揚げたものである。ウクライナは、地域によって気候が異なり、北部は寒帯、西部は温帯、南東部はステップに属する。首都キーウは大陸性の気候で、数日間で最高気温が10℃以上も上下することがある。

<インド> チキン65

インドのチェンナイ発祥の伝統的な家禽料理である。その名前の由来には、いくつか説があり、最も有力な説は、チェンナイにあるレストランで1965年にメニューに加えられたためという説である。味つけには多くのバリエーションがあるが、基本的にはショウガ、カイエンペッパー、マスタードパウダー、ビネガーなどの香辛料で味付けされる。インドは6つの気候に分かれており、チェンナイは熱帯性気候に属し、海をはじめとする自然が豊かなことが特徴である。

3. 考察

スパイスや香辛料には、消臭、殺菌、防腐作用があり、食料の保存性を高める効果がある。また、それらに含まれる辛味成分には、食欲を増進させたり、体温を上げたりする効果

がある。体温が上がることは、発汗を促すので、健康にも良い。これらの効果から、東南アジアや中国の重慶市などの暑い地域でスパイスや香辛料を使った料理が発達したと考えられる。イタリアの雨が少なく気温の高い夏の気候は、ぶどうの栽培に適するため、イタリアでは古くからワインが生産されていた。そのため、ローズマリーやオリーブオイルなどを使った、ワインに合う味付けになったと考えられる。しかし、気候や場所と味付けに関連があるとは一概には言えない。日本やオーストリアなどは、味付けと気候や場所に、関連はみられなかった。一方で、その地域で当時普及していた調味料を用いて、住民の舌に合う味付けになったことは確かである。

4. 結論

今回の研究から、香辛料はその利便性から、特に暑い地域でよく用いられていたことが分かった。また、料理は必ずしも気候や場所と関連があるわけではないということが明らかになった。また、当時その地域で普及していた調味料を用いた味付けにすることで、唐揚げは住民の人気を集めていったと考えられる。

5. 今後の課題

本研究では寒い地域には唐揚げのような料理があまりみられなかった。そのことについて、油の入手のしやすさと関連付けて調べていきたい。また、唐揚げがみられる地域の主食はお米が多かったのも、主食との関連もあるのか調べていくことが今後の課題である。

6. 謝辞

本研究を進めるにあたり、終始温かいご助言をくださった先生方、大変お世話になりました。先生方のお力添えなしでは、やり遂げられなかったと思います。本当にありがとうございました。

参考文献

- [1]一般社団法人日本唐揚げ協会 (2009)「日本唐揚げ協会」
<<https://karaage.ne.jp>> 2022年11月14日
- [2]The Wall Street Journal (2009)「Ayam Goreng, The Spicy Crunch of Yogyakarta's Fried Chicken」
<<https://www.wsj.com/articles/SB124591041672752227>>
2022年11月14日
- [3]Daniel Vasques (2023)「The delicious history of pollo fritto : A classic comfort food with a mysterious origin」
<<https://elmesonsantafe.com/the-delicious-history-of-pollo-fritto-a-classic-comfort-food-with-a-mysterious-origin/>> 2022年11月14日
- [4]ウィキペディア財団 (2022)「辣子鶏」
<<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%BE%A%E5%AD%90%E9%B6%8F>> 2023年1月6日
- [5]Cornelia Jarosch (2012)「Viennese cuisine wuth history-”Backhendl” (fried chicken), a genuine Viennese original」
<<https://vienna-insight.at/blog/2012/01/17/viennese-cuisine-with-history-%E2%80%9Dfriend-chicken-a-genuine->

viennese-original/>

2023年1月6日

[6]尾登雄平(2018)「韓国のフライドチキンの歴史-歴ログ-世界史専門ブログ」

<<https://reki.hatenablog.com/entry/181109-Korean-Fried-chicken-History>> 2023年1月23日

[7]ウィキペディア財団 (2022)「チキンキエフ」

<<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%81%E3%82%AD%E3%83%B3%E3%82%AD%E3%82%A8%E3%83%95>> 2023年1月23日

[8]ウィキペディア財団(2022)「Chicken 65」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/Chicken__65> 2023年1月23日

[9]渡邊里英(2020)「暑い国で辛い料理が好まれる理由とは？汗をかくのにどうして？」

<<https://www.olive-hitomawashi.com/colum/2020/07/post-11384.html>> 2022年11月14日

[10]ウィキペディア財団 (2023)「Effektive Klimaklassif」

<https://de.wikipedia.org/wiki/Effektive_Klimaklassifikation> 2022年11月16日

大手新聞社の傾向とその背景

～国葬問題を通して～

I.K. <社会②>

1.はじめに

人々は情報を得るために書籍、新聞、インターネット、SNSなどあらゆるツールを利用する。以前、ある情報を知るために様々な新聞を読んだ際、各社で受ける印象が異なっていたことに疑問を抱いた。また、自分の考えに近い、または遠い考えが書かれた新聞を探せばよいのか気になった。なぜ日本には多くの新聞があるのか。それぞれどのような違いがあり、そこには何が関係しているのだろうか。これらの答えを知るために本研究では複数の新聞の内容を比較する。新聞には事件などの記事だけではなく、社説・論説といった新聞社の意見や主張が載せられている。本研究では安倍元首相の国葬に関する記事や社説を対象とし、文中の表現や社説の内容などを比較する。

2.仮説と調査方法

2.1 仮説

新聞にはそれぞれ考え方などの違い・傾向があり、それらには何らかの要因がある。

2.2 調査方法

対象の新聞五大紙と呼ばれる「読売新聞」「朝日新聞」「毎日新聞」「日本経済新聞」「産経新聞」のうち、日本経済新聞を除く、4社を対象として探求を進めた。日本経済新聞は働く人々を対象としており、他の4社と系統が大きく異なると考えたため除いた。調査は9月1日～9日までの国葬に関する記事を対象とした。

2.3 調査内容

基本情報(新聞の値段、発行部数など)を調べ(表1)、国葬問題に関する情報を調べた。また、9月前半の記事内から「国葬問題」に関して調べた。それらの情報を比較して、共通点を探した。そこから国葬問題に関する国民の考えを調べ、新聞の記事内から新聞社の国葬に関する考えを調べた。

3.整理・分析①

表1 各新聞社の基本情報

	朝日新聞	毎日新聞	読売新聞	産経新聞
発行部数	3,990,000	2,011,884	7,044,225	1,200,000
値段/部	160円	150円	150円	120円
創設年	1879年	1872年	1874年	1933年

まず新聞社にはそれぞれどんな違いがあるのかを知るために、各新聞社の基本情報を調べた(表1・図1)。また、購読者における各年齢層の違いも比較・分析した。

新聞の記事自体の違いを知るために、記事の言葉の表現、取り上げている記事の内容、論説の表現を比較・分析した。この調査から各新聞社が「国葬問題」に対してどのような意見を中心に取り上げているのか分かった(図2)。

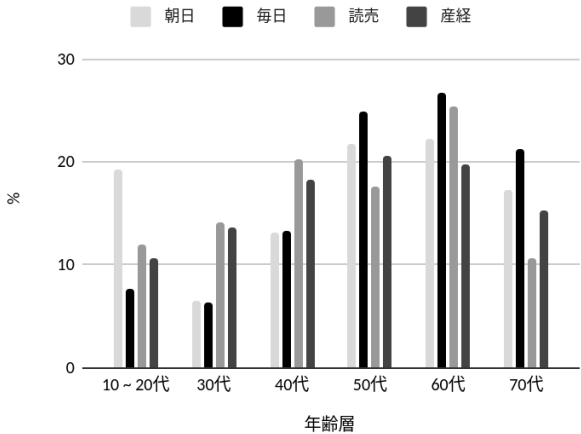


図1 各新聞社の購読者層



図2 各新聞記事の国葬問題に対する考え方

読売新聞について

”国の儀式の費用と、国民生活の問題を同列で論じることは無理がある。”などの記述があり、国葬に対しての否定的な考え方への批判が読み取れた。また、”首相「低姿勢」徹する”を大々的に表示していたことから、岸田首相の行動に対して肯定的に考えているのではないかと感じ取れた。

産経新聞について

社説に”諸外国に恥ずかしい国葬反対論”というテーマを取り入れているところから、国葬に対しての否定的な考え方への批判が読み取れた。

毎日新聞について

”疑念の核心部分に答えようとしないう”、“どこが「丁寧な説明なのか」”、“このまま強行するのでは無責任だ”などといった岸田首相の行動に対しての批判の記事が他の新聞社より多く見受けられた。また4社中2社(朝日新聞・毎日新聞)でしか見られなかった国会前デモの記事も載っていた。

朝日新聞について

”岸田首相の態度はとてども謙虚に人の声を聞く態度とは思えない。”、“無理して理屈絞り出す意図”、“国葬でなければ礼を欠くわけではあるまい。”などといった社説や一般市民が作成した記事などから岸田首相の行動に対しての批判や国葬自体への批判が読み取れた。

表1・図1では各社、購読者層において違いがあること、図2では

各社記事に違いがあることが分かった。このことから、購読者層が記事に影響を与えているのではない(各年代の思想に合わせて新聞を書いているのではない)かと仮説を新たに立て、調査・分析②を行う。

4. 整理・分析②

表1・図1より、購読者層において違いがあること、図2より各社で「国葬問題」に対する考えの違いが表れたことが分かった。購読者に合わせて記事の内容が書かれているのかを知るために、整理・分析②では各年齢層が「国葬問題」に対して肯定的な考えなのか否定的な考えなのかを調べた。

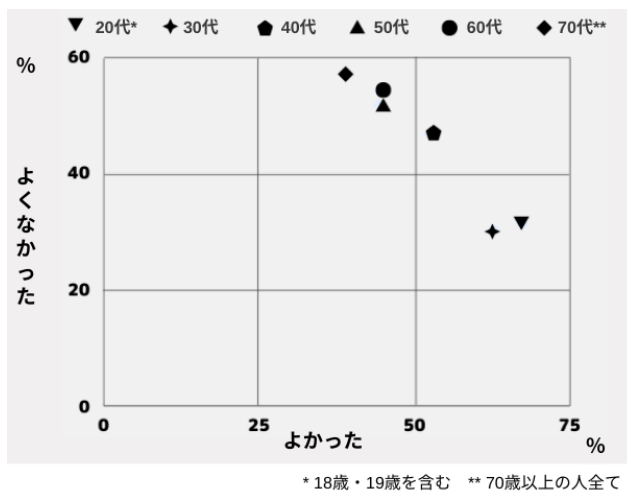


図3 国葬問題に対する国民の考え方(年齢別)

FNNによる2022年7月23、24日、全国の18歳以上の男女を対象に電話で行われた世論調査によると、18～19歳を含めた20代は、「よかった」67.3%、「よくなかった」31.4%。30代は、それぞれ62.7%と30.3%。40代は、52.5%、46.7%。50代は、44.4%、51.7%。60代は、44.4%、54.2%。70歳以上は、39.1%、57.0%という結果が出た(図3)。また調査時期が新しくなるにつれて、国葬に対して批判的な考えを持つ人が増えている。

5. 考察

読売新聞について

表1・図1より、20代～40代の購読者の割合が高く、図3より、20代～40代は国葬問題に対して肯定的な人が多いことが読み取れた。図2から、国葬への否定的な意見に対する批判の記事・岸田首相の行動に対する肯定的な表現が読み取れた。よって、読売新聞の購読者の考えに合った新聞の記事となっていることが分かったので、購読者層と新聞は関係している可能性があると考えられる。

産経新聞について

表1・図1より、他の3社と比較して特に目立った年代はなく、広い世代に読まれていることが読み取れた。また図3より、調査時期が新しくなるにつれて「国葬問題」に対して否定的な考えを持っていることが読み取れた。図2からは肯定的な記事が見られた。産経新聞の購読者の考えと記事に表れている考えが異なっていることが分かった。したがって、産経新聞には購読者層と新聞社の傾向に関係が見られなかったと言える。

毎日新聞について

表1・図1から50代～70代の購読者の割合が他の3社に比べ高いことが読み取れた。図3から50代～70代は国葬問題に対して否定的な人が多いことが読み取れた。また、図2を見ると、岸田首相の行動、国葬自体に対する批判的意見が目立っていた。したがって、毎日新聞には購読者層の考えにあった記事が載せられていることがわかり、これが新聞社の傾向であると考えられる。

朝日新聞について

表1・図1から10代～20代の割合が高く、かつ50代～70代の割合も比較的高く、他の3社に比べてはっきり分かれていない。また、図3の調査からは調査時期が新しくなるにつれて国葬に対して否定的な考えを持つ人が増えていることもあり、全世代の流れに合わせて批判的な記事が作られるのではないかと考えた。実際に図2から国葬に対する否定的な記事が見られた。したがって、毎日新聞には購読者層の考えにあった記事が載せられていることがわかり、これが新聞社の傾向だと考えられる。

6. おわりに(結び、まとめetc)

6.1 結論

産経新聞を除いて、読売新聞・毎日新聞・朝日新聞では国葬問題に対する考え方がそれぞれ異なっていた。またその違いは各社の購読者層と関係がある可能性が高いことが分かった。

6.2 今後の課題

産経新聞では購読者層と記事の内容に関係が見られなかったことから、他の要因もあるのではないかと考えた。そのため、創設年から社会の出来事と結びつけて今後調査したい。今回は時間の都合上、1つのテーマ(国葬問題)に絞って調べたが、今後は他のテーマについても調べてみたい。また、今回の研究では、購読者層と新聞社の傾向との間に関係がみられたが、購読者層が新聞社の傾向に影響を与えているという因果関係を示すことは難しい。新型コロナウイルスや教育など異なるテーマの新聞を調べ、その因果関係の有無も調べたい。

参考文献

- [1]『読売新聞』2022年9月1、9日朝刊
- [2]『産経新聞』2022年9月1、7、8日日刊
- [3]『毎日新聞』2022年9月1、9日朝刊
- [4]『朝日新聞』2022年9月1、9日朝刊
- [5]読売新聞広告局・2018・『「デイリー読者数」による読売新聞の読者像分析』
<<https://adv.vomiyuri.co.jp/research/vomitoki/topics201912-2.html>>・2022年1月20日アクセス。
- [6]毎日新聞・2021・『毎日新聞「購読者世帯」プロフィール』
<<https://macs.mainichi.co.jp/ad/profile.html>>・2022年1月20日アクセス。
- [7]朝日新聞・2021年・「DATA FILE 2022 朝日新聞媒体資料」
<https://adv.asahi.com/mb/other/media_kit/Asahi_DataFile2022_05.pdf>・2022年1月20日アクセス。
- [8]産経新聞: 木村雅文(2004)「現代 日本新聞読者層」JGSS研究論文集p.66。
- [9]国葬問題: FNN(2022)「安倍晋三元首相の国葬 若者は賛成、高齢者は反対が多い」
<<https://www.i-cast.com/trend/amp/2022/08/02443002.html>>・2022年11月29日アクセス。

ねえ、今どんな気持ち ～LINEのトーク時の既読無視と未読無視におけるネガティブ感情～ N. S. <社会②>

1. はじめに

現代を生きる私達にとってLINEはほとんど必要不可欠なものであるが、特に若い世代ではLINEを通じた様々なトラブルが存在する。他人にどう思われているかを気にする人は多く、自分自身でも、自分が抱く感情は他の人も抱くことがあるのかと疑問に思った。そこで様々なトラブルの中で既読無視と未読無視が引き起こすネガティブ感情に焦点を当てて研究した。

2. 研究の動機

2.1 内容

最近私自身友人に既読無視や未読無視をされることが多いと感じている。その際、ネガティブな感情を抱いてしまう。同年代の高校生も既読無視や未読無視をされたとき、ネガティブな感情を抱く人が多いのか、またどのようなときにそう感じるのかを知りたいと思ったため、この研究を始めた。

「2，あなたは未読無視をされたときにネガティブな感情を持ちますか？」のカウント数

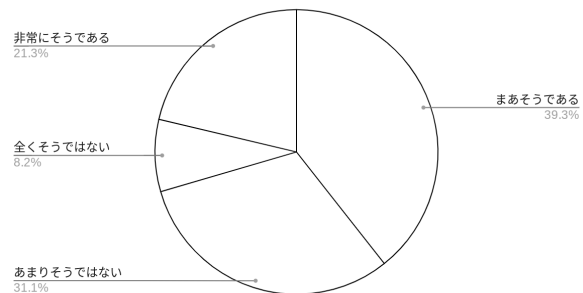


図2

未読無視をされたときに抱くネガティブ感情の程度
図2より、未読無視されたときには、ネガティブな感情を抱く人が多いことが分かった。

3. 仮説と調査方法

3.1 仮説

既読無視や未読無視をされるとネガティブ感情が引き起こされる。またそれは相手との関係が親密でない場合に引き起こされやすい。

3.2 実験や調査内容 1

竹園高校の60人の生徒に、既読無視と未読無視に関する16個の質問を-googleフォームのアンケート形式で尋ねた。

「3，未読無視されたとき最もネガティブな感情を抱くのは相手がどんな関係のときですか？」のカウント数

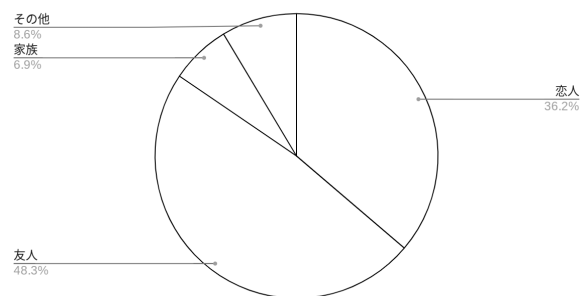


図3

ネガティブ感情を抱く関係
図3より、およそ半数の人が友人に未読無視されたときネガティブ感情を抱くことが分かった。

4. 整理・分析

4.1

「1，既読無視または未読無視をされた、またはされたと感じたことはありますか？」のカウント数

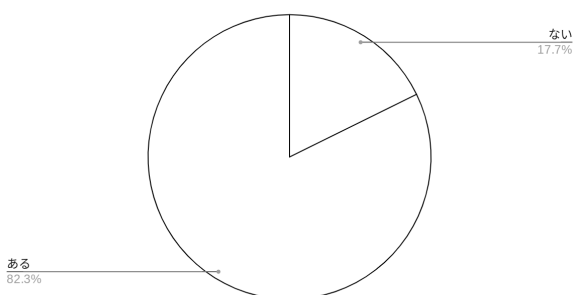


図1

既読無視、未読無視された経験の有無
図1より、既読・未読無視されたと感じる人は過半数存在していることがわかった。

「8，あなたは既読無視をされたときにネガティブな感情を持ちますか？」のカウント数

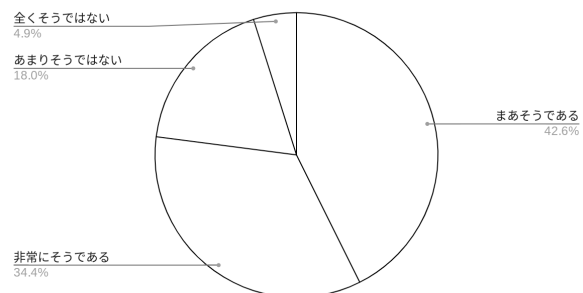


図4

既読無視をされたときに抱くネガティブ感情の程度
図4より、既読無視をされたときにネガティブ感情を抱く人が過半数存在していることが分かった。

「9、既読無視されたとき最もネガティブな感情を抱くのは相手がどんな間柄のときですか？」のカウント数

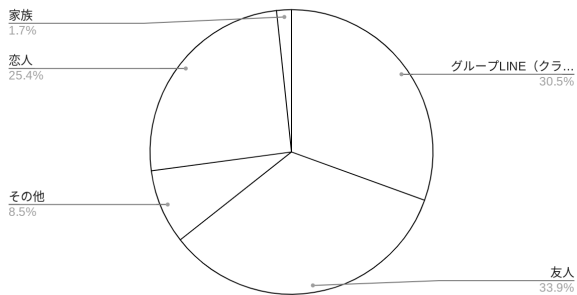


図5

図5 既読無視時のネガティブ感情を抱く間柄

図5より、グループや友人とのLINEにおいてネガティブ感情を抱く人が多いことが分かった。

5. 考察

既読無視されたとき、ネガティブ感情が引き起こされる事が多い。未読無視されたとき、ネガティブ感情を感じる人と感じない人の割合に大きな差はない。またネガティブ感情は相手との関係の親密度に影響されない場合が多い。

6. おわりに

3.1 結論

既読無視や未読無視を経験したことがある人は多いが、既読無視か未読無視かによってネガティブ感情を抱く人の割合はかなり異なり、事前の予想に反していた。またネガティブ感情を抱く相手は間柄に影響されない場合が多いが、既読無視、未読無視いずれの場合でも「友人」と回答した人の割合が大きかった。私の動機からしても共感できた。

3.2 今後の課題

同年代の高校生においては、より大きい母集団の中でアンケート調査をしたいと思った。また、高校生に当てはまる傾向が大人や中学生などの他の集団に当てはまるのかについても調べたい。

女子高校生のSNS利用と痩せ願望の関連性

H.N. <社会②>

1.はじめに

近年、全世代でのスマートフォンの所有率が増加し、だれでもアクセスが可能な情報量が増えている。中でも若者のスマートフォン所有率は高く、総務省によると10代～30代のスマホの所有率は90%以上となっていることが分かっている。また、若者の主なスマートフォンの使用目的はソーシャルネットワークワーキングサービス(以下SNS)であり、国内全体でのSNSの利用率は73.8%、若者では90%を超える結果となっている。利用しているSNSをアプリ別で見ると、LINEやYouTubeは全世代で利用者が多かったがTwitter、Instagram、TikTokは特に若者での利用者が多かった。インターネットの平均利用時間は全年代で168.4分、10代～30代でのSNSの利用時間は全年代のSNSの平均利用時間に比べて2倍以上となった。

思春期女子において、SNSの使用が痩せ願望と関連しているという報告がされている[4]。近年では若い女性の痩せ願望・摂食障害が問題視されており、厚生労働省の国民健康・栄養調査によるとやせの者(BMI<18.5)の割合は女性が男性の約3倍となっている。摂食障害とは、食事の量や食べ方など、食事に関連した行動の異常が続き、体重や体型の捉え方などを中心に、心と体の両方に影響が及ぶ病気をまとめた総称である。摂食障害は細かく分類され、神経性やせ症、神経性過食症、過食性障害が含まれる。摂食障害の原因の一つである痩せ願望は必ずしも病的な心理状況とは判断されないが、極端な食事制限・過食嘔吐などにつながることで摂食障害へと発展する。

そこで今回は中期～後期思春期である女子高校生を調査対象にSNSの使用とやせ願望の関連性について研究を行った。

2.先行研究と仮説

2.1 先行研究

2012～2015年に行われた杉本による先行研究[1]では8歳～10歳の児童を調査対象とし、質問項目は痩せ願望、SNSの使用、テレビ視聴時間、児童の体型、精神病理(抑うつ傾向)として調査を行った。結果、痩せ願望は女子が男子より強いことが認められた。また、SNSの使用経験は男女に大きな差はなかった。痩せ願望とSNSの関連は、女子においては有意な差が認められたが男子には認められなかった。

2.2 仮説

先行研究と同じくSNSの利用経験のある人はない人よりも痩せ願望が強く、利用しているSNSがInstagram、TikTok、YouTubeなど写真や動画が主な投稿内容となるアプリをよく利用する人はその他のアプリを使う人よりも痩せ願望が強いと考える。また、痩せたいと感じるSNS上の投稿はダイエットの成功経験、自分が理想とする人の写真や動画なのではないかと考えた。

3.方法

参加者 2022年11月、茨城県立竹園高等学校の1年生、2年生の女子34名を対象に質問紙による調査を行った。有効回答数は31名であった。調査は2022年11月にgoogle formを利用して行われた。

質問 本研究では、質問紙を使用して、痩せ願望の有無、SNSの利用、ダイエットの経験について調査した。その後、それらの関係を調べた。質問紙の内容は表1にまとめた。

表1 質問紙の内容

質問1	SNSの使用経験の有無。
質問2	痩せ願望について、「今よりも痩せたいと思いますか」という質問に対し、1(痩せたいと思う)から4(痩せたいとは思わない)の4項目で尋ねた。
質問3	質問2で1または2と回答した人にSNS上のどのような投稿を見て痩せたいと感じたか、選択肢は「エクササイズ動画」、「理想とする体型の人の写真や動画」、「ダイエットの成功経験」、「ダイエットサプリ・健康食品に関する投稿」で尋ねた。
質問4	最もよく利用するSNSについて、選択肢は「LINE」「Twitter」、「TikTok」、「Instagram」、「YouTube」、「その他」で尋ねた。

4.結果

質問1について、調査対象者の100%がSNSの使用経験があると回答した。

質問2について、「今よりも痩せたいと思いますか」という質問には63.3%が「痩せたいと思う」、16.7%が「どちらかというと痩せたいと思う」、6.7%が「どちらかというと痩せたいとは思わない」、13.3%が「痩せたいとは思わない」と回答した。

今よりも痩せたいと思うか

- 痩せたいと思う
- どちらかというと痩せたい
- どちらかというと痩せたいとは思わない
- 痩せたいとは思わない

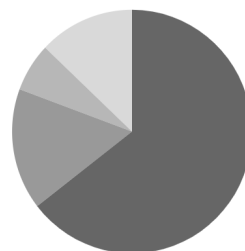


図1 今より痩せたいと思う人の割合

質問3について、SNS上のどのような投稿を見て痩せたいと感じたかについて、エクササイズ動画が8.3%、理想としている体型の人の写真や動画が79.2%、ダイエットの成功経験が12.5%、ダイエットサプリ・健康食品が0.0%であった。

痩せたいと思うSNS上の投稿

- エクササイズ動画
- 理想としている体型
- ダイエットの成功経験



図2 痩せたいと思うSNS上の投稿

質問4について、最もよく利用するSNSはInstagramが38.7%、Twitterが12.9%、YouTubeが29.0%、LINEが19.4%、TikTokが0.0%であった。また、投稿の主な内容が写真、動画のアプリをInstagram、YouTube、TikTokとし、その他をLINE、Twitterとした時、痩せ願望がある人となない人で最もよく利用するSNSの割合は図3,4のようになった。ただし「痩せたいと思う」、「どちらかという痩せたいと思う」と答えた人を痩せ願望ありとし、「どちらかという痩せたいと思わない」、「痩せたいとは思わない」と答えた人を痩せ願望なしとした。

痩せ願望あり

- 写真・動画メイン
- その他

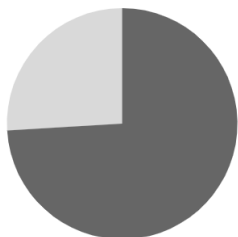


図3 痩せ願望がある人が最もよく利用するSNS

痩せ願望なし

- 写真・動画メイン
- その他



図4 痩せ願望がない人が最もよく利用するSNS

5. 考察

質問紙による調査では全員がSNSの使用経験があると答えたため、SNSの使用経験がある人はない人よりも痩せ願望が

強いという仮説を検証することができず、SNSの使用経験の有無による痩せ願望の違いを確認することはできなかった。質問2の回答で痩せたいと思うと答えた人が63.3%、どちらかという痩せたいと思うと答えた人が16.7%で合計が80%となることから女子高校生は約8割が痩せ願望を持つことが考えられる。「痩せたいと思う」「どちらかという痩せたいと思う」すなわち痩せ願望がある人の最もよく利用するSNSがInstagram、YouTubeで写真や動画がメインのアプリが7割を超え、痩せたいと思うSNS上の投稿が理想としている体型の人の写真や動画が約8割であった。

仮説では痩せたいと感じるSNS上の投稿はダイエットの成功経験、理想としている体型の人の写真や動画であったが、結果ではダイエットの成功経験は12.5%と低くなった。

6. 今後の課題

今回の調査ではSNSの使用経験がある人しか調査できなかったため、SNSの使用経験の有無による痩せ願望の違いについても調べられるように調査人数を増やしSNSの使用経験がない人も調査したい。

質問紙による調査でSNSの使用経験を単にあるか、ないかにしぼったため、使用経験がある人の中でも更に使用頻度で比較したいと考えている。

先行研究では男女での違いについても調査していたため、今回と同様の調査を男子にも行い、男女の違いについても比較したい。

謝辞

本研究を進めるにあたって、丁寧なご指導をしてくださったゼミ指導員の澤井先生に心から感謝申し上げます。

参考文献

- [1]杉本徳子「前期思春期女子におけるやせ願望とソーシャルネットワーキングサービスの関連について」Human Developmental Research 2016.Vol.30, 95-102
- [2]厚生労働省 こころの健康や病気、支援やサービスに関するウェブサイト 2023年1月25日アクセス
- [3]厚生労働省 令和元年 国民健康・栄養調査
- [4]Tiggemann, M. & Slater, A. (2013). NetGirls: the Internet, Facebook, and body image concern in adolescent girls. International Journal of Eating Disorders, 46, 630-633
- [5]国立精神・医療研究センター 摂食障害の現状

悪夢を見るチーズの検証実験

A. H. <社会②>

1はじめに

1.1 要旨

人間の一生の中で夢を見ている時間はおよそ6年間に相当すると言われている[1]。夢には様々なものがあるが、特に悪夢は私たちの睡眠を妨げるという意味で疎まれる存在である。実際に悪夢障害という睡眠障害の症状に苦しむ人も一定数存在する。そこで夢の内容を左右する原因として、自分の意志で思い出すことのできる記憶である顕在記憶の他に夢を見る前に食べたものの内容が挙げられた[2]。悪夢を見ると私たちの体内においてビタミンB群、特にビタミンB6が過剰、または不足している可能性が示唆され、ビタミンB6は感情・精神安定や睡眠に関係する神経伝達物質の合成に関わっており、ビタミンB6の過不足によって精神状態や睡眠に影響が出ることが分かっている[3]。このことから就寝前に摂取したことによって夢の内容が変わる可能性は非常に高いと考えられる。そこで今回の実験では先行研究に従って、悪夢を見ることに影響を及ぼす食材としてスティルトンチーズを用いた。具体的な方法としては、被験者に就寝前にスティルトンチーズを食べてもらい、その夜見た夢の内容、就寝前の行動などについてのアンケートを実施した。先行研究で行われた実験において、被験者が悪夢を見るという結果が得られたのはスティルトンチーズを食べた時のみであったため、本研究ではスティルトンチーズを用いて実験を行った。

1.2 先行研究

2005年、英国チーズ委員会は「就寝前にチーズを食べると悪夢を見る」という当時のイギリスの迷信の真偽を確かめるという目的のもと、被験者200人（男性100人、女性100人ずつ）に対して、チェダーチーズ、レッドレスター、ランカシャー、チェシャー、ブリティッシュブルー、スティルトンチーズの6種類のチーズをそれぞれ7日間、就寝30分前に20g食べて、見た夢を起床後に記録するという実験を行った。この実験は就寝前に食べるチーズの種類によって、見る夢の内容が異なることを示した。スティルトンチーズを食べた被験者のうち女性の85%、男性の75%が奇妙な夢を見たという結果が出た。同実験では悪夢の定義付けに関する記述はなく、夢の内容のジャンルについては不思議な夢、奇妙な夢、鮮明な夢、明晰夢というように分けられた。

2. 方法

参加者 竹園高校の生徒と自分の家族（女性8人、男性2人）を対象とした。

質問 第一に「昨晚夢を見たか」という質問を設けた。第二に夢の内容と就寝前の行動との関連を分析するため、上記の質問に「はい」と答えた被験者に「②昨晚見た夢の内容」「③昨晚見た夢によって睡眠が妨げられたか」「④昨晚見た夢が悪夢だと思うか」という質問を設けた。②の質問の回答は自由記述とし、③、④の質問に対して「はい」「いいえ」「わからない」の中から最も当てはまるものを選ぶ形にした。④で「はい」と答えた被験者には「⑤就寝前に何をしていたか」「⑥昨日の

夜ご飯に何を食べたか」の質問を追加で設け、回答は自由記述とした。本実験での悪夢の定義は個人の睡眠を妨げたかどうかとする。

手続き 被験者には事前にスティルトンチーズを30g（10gずつ小分けにしたものを配布し、3日間就寝前に10gずつ食べるように指示し、翌朝起床後に、Google Docsにアンケートを入力してもらった。

3. 結果

3.1 日ごとの悪夢率

1日目に悪夢を見た人の割合は夢を見たと回答した被験者4人のうち2人であった。2日目に悪夢を見た人の割合は夢を見たと回答した被験者5人のうち3人であった。3日目に悪夢を見た人の割合は夢を見たと回答した被験者4人のうち2人であった。

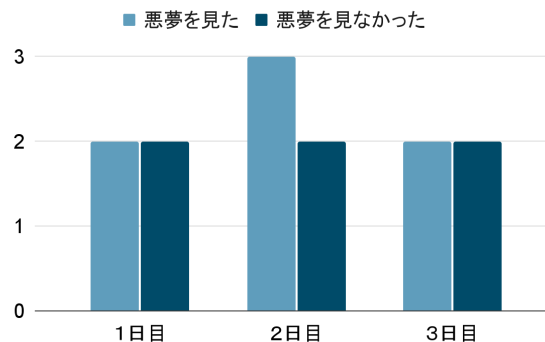


図1 上記の結果に基づいて作成した棒グラフ

3.2 悪夢を見た被験者における男女差

1日目に悪夢を見たと回答した被験者のうち男性は0人、女性は2人であった。2日目に悪夢を見たと回答した被験者のうち男性は1人、女性は2人であった。3日目に悪夢を見たと回答した被験者のうち男性は1人、女性は1人であった。

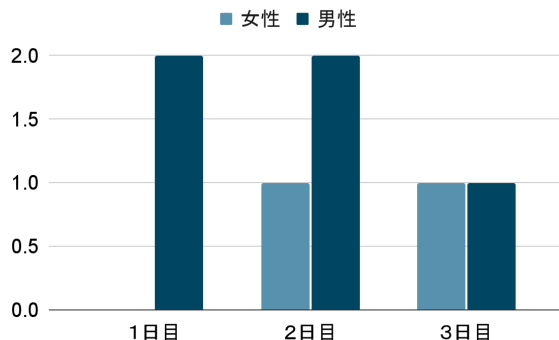


図2 上記の結果に基づいて作成した棒グラフ

3.3 夢の内容

自由記述で得られた夢の内容をそれぞれ表にまとめた（表1、表2、表3）

表1 1日目の夢の内容

女子	男子
暗いプールで知らない男の人に追いかけて回される夢、家の中に不審者が入ってくる夢	

表2 2日目の夢の内容

女子	男子
歩くのがとても遅い世界での戦争、車を運転して事故に遭う夢	強盗の人質になり殺されそうになる夢

表3 3日目の夢の内容

女子	男子
不審者から追いかけられる夢	親にひどく怒られる夢

4. 考察

今回の実験では被験者に事前に“悪夢を見るチーズ”と称してスティルトンチーズを配布したことから被験者に「このチーズを食べると悪夢を見る」というような先入観が生まれ、その先入観のために被験者が悪夢を見た可能性が考えられる。

先行研究では夢を見た被験者のうち女性の85%、男性の75%、今回行った実験では女性の60%、男性の50%が悪夢を見たという結果から、スティルトンチーズを食べた時に女性の方が悪夢を見る傾向にあると考えられる。

スティルトンチーズの主成分の一つであるビタミンB6を含むビタミンB群は睡眠に関係する神経伝達物質の合成に関わっており、夢の想起に影響するとされている。今回の実験ではビタミンB6を含む食材としてスティルトンチーズのみを用いたが、ほかのビタミンB6を含む食材やビタミンB6を含まない食材を用いて対照実験した時に、ビタミンB6を含む食材について今回と同様の結果が得られれば、ビタミンB6が悪夢を見ることに深く関係している可能性が高くなると考えられる。

5. おわりに

5.1 結論

本研究では、先行研究よりも割合が減ったものの、スティルトンチーズを食べて寝た際に悪夢を見る人の割合が女性、男性ともに半数以上であることが分かった。また、仮説では就寝前の行動が夢の内容に影響を及ぼすのではないかと考えたが悪夢を見た被験者の間で共通した行動はなかった。本実験において就寝前の行動よりもその行動の中で目にしたものや、新たに入ってきた情報を記録してもらう必要があった。スティルトンチーズを食べた時に悪夢を見た原因として、ビタミンB6が含まれていることが考えられた。すなわち夢の内容は食べたものに含まれる成分で変化する可能性が考えられる。

5.2 今後の課題

今回の実験を通して今後同様の実験を行う際に改善し

たい点が3つある。1つ目は大幅な男女比の差である。男性と女性の人数比を同じにすることでより正確なデータが集められると期待できる。2つ目はスティルトンチーズを配布する際に「悪夢を見るチーズ」と伝えた被験者に加えて伝えなかった被験者を作り、対照実験を行いたい。この対照実験によって「被験者の先入観がどれだけ実験結果に影響を与えるか」について調査できると期待できる。3つ目は就寝前の行動に加えてその行動の中で印象に残ったことをアンケート項目に追加したい。これにより直前に体験した記憶が夢の内容に反映される、すなわち直前の記憶が、悪夢を見た被験者の悪夢を見た原因になり得るのか調査できる。

謝辞

実験に協力していただいた皆様へ。忙しい中でも本実験に参加していただきありがとうございました。皆様のご協力なしには本研究は無事終えることはできませんでした。

参考文献

- [1]Denholm J Aspy, Natasha A Madden, Paul Delfabbro(2018)『Effects of Vitamin B6(Pyridoxine) and a B Complex Preparation on Dreaming and Sleep』
- [2]筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構
<https://wpi-iiis.tsukuba.ac.jp/japanese/faq/>, 2022年12月22日アクセス.
- [3]オーソモレキュラーアカデミー
<https://www.orthomolecular-academy.jp/post/blog-ka-tsuta-12>, 2022年12月22日アクセス.
- [4]British Cheese Board(2005)『Cheese & Dreams』

戦国時代から変わらぬ理想のリーダー像とは

I.H. <社会②>

1.はじめに

以前から日本史、その中でも特に戦国時代の戦国武将たちに興味があり、戦国武将に関する研究をしようと考えていた。研究を進めていく中で戦国武将たちの強さとは何であろうかと考えた際に、戦に勝つ圧倒的な武力のみではなく、軍を率いる統率力や大将の器を持つことが戦国武将たちの強さであると考えた。また、約500年前の戦国時代には戦国武将達が家臣とともに軍をまとめて活躍したが、現在では、学校にはクラス代表や学校長、社会に出て働けば会社の上司や社長などたくさんのリーダーが存在する。そこで、リーダーとしての重要な要素は時代が変わって環境が異なってもずっと変わらないのではないかと考え、本研究を行った。本研究では、戦国武将達の家訓・分国法から武将たちが大切にしていることの共通点を見つけて戦国時代から変わらない理想のリーダー像を見いだした。そのため、本研究では戦国武将達の家訓・分国法についての本2冊と現代のリーダーシップに関する本3冊を利用して研究を進めた。

2. 研究

2.1 家訓・分国法とは

はじめに、家訓と分国法について示す。家訓とは、子孫や家臣の心構えを説いた訓戒のことである。本研究では、『朝倉孝景条々』と『早雲寺殿廿一箇条』の2つが家訓にあたる。分国法とは、戦国大名が分国支配や家臣統制のために制定した法である。本研究では、『今川かな目録』、『黒田如水教諭』、『甲州法度次第』、『塵芥集』、『武田信繁家訓』、『結城氏新法度』の6つが分国法にあたる。また、今回の研究では、理想のリーダー像を見いだすことを目的としたため、家訓・分国法の中で大将としてのあるべき姿や家臣に対しての接し方について該当する箇所のみを対象とした。

2.2 家訓・分国法について

8つの家訓と分国法について、大将としてのあるべき姿や家臣に対しての接し方を述べている箇所を抜粋して以下のようにならせた[1、2]。ただし、表は家訓・分国法の名前の五十音順に並べてあり、括弧内には著者を示している。

朝倉敏景 十七箇条 (朝倉敏景)	・有能で正直な家臣に領内を定期的に巡見させる、または主君自ら姿を少し変えて領民の声を聞く。 ・町並みなどを通る際、綺麗なものは褒め、破損したものには哀れみの言葉をかける。 ・粗末な布衣を着用するべきである。 ・家老職を能力や忠節心によって登用し、無能力の者に奉行職などを預けてはならない。 ・正邪善悪の理非を曲げてはならない。 ・奉公の志が堅固な人には特別な愛情を持って扱う。
今川かな目録 (今川氏親、義元)	・喧嘩両成敗。もし相手が攻撃してきても、我慢して穏便に対処した者を勝訴とする。

黒田如水教諭 (黒田如水)	・文武両道。 ・真の威厳は、自分の行儀を正しくし、理非賞罰を明確にすることで、無理に人を叱り、恐れられることなく、敬われて身につく。
甲州法度次第 (武田信玄)	・喧嘩両成敗。
塵芥集 (伊達植宗)	・喧嘩や口論の際、先に手を出した側の過失とする。 ・人を斬る罪は、伊達家に報告して処罰を待ち、他人を殴る罪は、所領を没収、又は、他国に追放する。
早雲寺 廿一箇条 (北条早雲)	・生活リズムや身だしなみを整える。 ・他人のように立派なものを所持したいと思っはならない。 ・何事も他人には逆らわず、無事に済ますようにする。 ・虚言を吐かず、正直に物を言う。 ・文武両道。
武田信繁家訓 (武田信繁)	・慈悲の心が肝要である。 ・仁の道を心がける。 ・虚言をしてはならない。 ・誰に対しても不作法をしてはならない。 ・恨み言や無用の雑談をしてはならない。 ・自国、他国の動静や策略について、精力を注いで詳細に知る。 ・決して柔弱な様子を見せない。 ・家臣が病気になったり、何らかの事情で困窮したりする時、心を込めて指図や援助をする。 ・忠節の臣下を忘れない。 ・道理に適う他人の諫言に背かない。 ・家来の小さな過失は叱責するが、度々罰さない。肝要なのは、過ちを口論することではなく、以後の心がけである。 ・家臣への褒美は、働きの大小に関係なく、直ちに与える。 ・当人の能力に応じて命ずるべきである。 ・従わざるを得ない意見は受け入れるべきである。 ・何事も争うべきではない。 ・文武両道。 ・何事も怠ったり油断したりしてはいけない。
結城氏新法度 (結城政勝)	・喧嘩口論は、一緒に徒党を組んだ者に処罰を下し、支援や加担をした者は、一族も断絶とする。誰にも頼ら

	ず、応戦した場合は、その身一人のみを改易とする。 ・些細なことで腹を立てず、丁寧に筋道を立てて説明する。
--	---

2.3 現代のリーダーシップ像について

3冊の現代のリーダーシップについての本から、現代のリーダーシップ像の共通点を以下のようにまとめた[3、4、5]。なお、本研究の目的に合う箇所のみを抜粋しており、細かい経営面の内容は対象外とした。また、内容の順は順不同であるが、内容が類似している物ごとに並んでいる。

- ・理念を持ち続ける、夢を共有
- ・小さな目標の積み重ね
- ・社員の意欲を高め、自信をつけさせる
- ・コミュニケーション
- ・メンバーに頼る、信じて任せる、尊重する
- ・適材適所
- ・後継者育成、経験を積ませる
- ・相手の立場を考え、共感
- ・短所改善より長所を伸ばす
- ・価値基準を共有する、価値観の違いを受け入れる
- ・報告・連絡・相談
- ・失敗を受け入れる
- ・常に時代の最先端をいく、新しい情報を取り入れる
- ・細かいことを全て把握する
- ・リスクを常に忘れない
- ・柔軟な問題解決力、危機管理能力
- ・クレームや人の話を素直に聞く
- ・意見のぶつかりを恐れない
- ・次世代に事業を引き継ぎ、やめ時を視野に入れる
- ・交渉術
- ・NOと伝える勇氣
- ・人間力(親しみやすさ、好奇心、創造性)
- ・感情コントロール、常に冷静でいる
- ・言動に気をつける

2.4 家訓・分国法と現代のリーダー像の共通点

上記の調査結果から、
・家臣や部下たちの能力や適性を見極める
・軍やチーム内の人々の関係性等の細かいところまでを把握する
・反対意見も受け止める
・軍やチームの温度を上げて良い雰囲気を作る
・家臣や部下たちへの配慮を忘れない
・失敗を厳しく怒らない
以上の6つが、家訓・分国法と現代のリーダー像の共通点であると言える。

3. 考察

上記に示した6つの共通点がリーダーに必要なとされている要素と言える。その他に、家訓・分国法には、家臣たちの失敗を厳しく罰さないようにという記述がある一方で、喧嘩両成敗などの喧嘩を罰する記述が多く見られたため、家臣たちの小さな争いごとを防いで軍を統制しようとしていたことが分かる。また、文武両道を促す記述が多いため武力だけではなく教養も重要視していたことが分かる。これは武道のみを極めても教養がなければ掟を定めることなどが難しく、国を治めることができないからだと考えられる。さらに、家訓・分国法と現代のリー

ダー像のどちらにも家臣、または部下に対しての言動や態度について等の対人関係に関する記述が最も多く見られた。このことから周りのことを常に考え、寛容な心を持つということがリーダーとしての心構えとして重要ではないかと考えられる。

4. おわりに

4.1 結論

本研究を通して考えられる昔から現代に至るまでリーダーに必要なとされている要素は、部下たちのことをしっかり理解して細かいところまで把握すること、チームの雰囲気を良くすること、周りの意見にも耳を傾けるということであり、これらが私が本研究をとじて見いだした戦国時代から現代まで変わらない理想のリーダー像である事が分かった。

4.2 今後の課題

今回の研究では共通点を中心に研究を進めたが、同じ戦国時代の中でも年代や地域などの違いから、思想や重視していること等の内容に小さな相違点があると考えるので、相違点について少し調べようと思う。また、今回調べることができなかった他の家訓や分国法についても分析して大将としてのあるべき姿や家臣に対しての接し方だけでなく、他の観点からも比較してみたいと思う。

謝辞

研究を始めたばかりの頃は方向性が定まらず、研究が進まない時もありましたが、私が研究を進めるにあたって親身になってご指導して下さい、探Q指導員の澤井先生、担当の丸山先生に大変感謝しています。ありがとうございました。

参考文献

[1]小澤富夫 (1985)『家訓』講談社。
[2]清水克行 (2018)『戦国大名と分国法』岩波書店。
[3]三條慶八 (2017)『社長の基本』株式会社かんき出版。
[4]守屋智敬 (2015)『シンプルだけれど重要なリーダーの仕事』株式会社かんき出版。
[5]ナイジェル・カンバーランド (訳 児島修) (2022) 『リーダーの習慣』ダイヤモンド社。

日本における理想の英語教育 ～シンガポール、マレーシア、韓国の英語教育の比較より～

H.M. <社会②>

1. はじめに

3ヶ国それぞれの国で教育を受けた経験から教育の違いについて興味を持った。さらに、メディアやSNSで日本人の英語力が低いと知って、アジアの国々でそれぞれ教育システムにどのような違いがあるのか、また、日本にも導入することができるシステムはあるのか知りたいと思った。

2. 日本における英語の現状と仮説

2.1 ランキングから見た日本人の英語力

EF英語能力指数世界ランキング2020(リスニングとリーディングのテスト)から、日本のランキングは115ヶ国中82位であることが明らかにされた[1]。一方でシンガポール、マレーシア、韓国はそれぞれ2位、24位、36位と日本より高い順位を獲得している。この調査には英語が第1言語である米国や英国は含まれていない。

2.2 日本における英語の需要について

日本における英語の需要について、群馬大学の荒木章二教授は日本人の内、5%しか英語を必要としていないという調査結果を示した[2]。また、中国、韓国、日本の大学生に英語を学ぶ目的を尋ねた調査では、中国や韓国においては、英語を学ぶ目的が専門分野を学ぶためや希望する職業に就くためというはっきりとした理由が一位になっている一方で、日本人の英語を学ぶ理由第一位は“特にない”であった[3]。これらのことから、日本における英語の需要は低いのではないかと考えられる。

2.3 仮説

日本人の英語力は低く、学ぶ目的も不明瞭であり、対して、英語を学ぶ目的が明瞭である韓国人は高い英語力をもつことがわかった。このことから日本における英語の需要が高いことがわかれば、日本人の英語力も向上するのではないかと仮説を立てた。

3. 整理・分析

3.1 英語学習の必要性について―出稼ぎの時代へ―

現在の日本における英語学習の需要は低いことは明らかであるが、これからの日本における英語の需要はあるのか。以下の2点から日本における英語学習の必要性について分析していく。1点目は、英語は全世界のあらゆる部分で多用されているという点である。英語を公用語、準公用語とする国は54カ国あり、英語を話す人口は約21億人もいる。さらに、インターネット情報の80%は英語であり、発表される全科学論文の3分の2は英語で書かれている。このことから英語を使えるということはそれだけ多くの人々とコミュニケーションを取れ、情報にアクセスできるということである。これらのことはグローバル化が進む現代において英語を学ぶ必要性があるとわかる。2点目は日本の賃金が低くなればなるほど英語学習の需要は高くなるという点である。IT MEDIAの窪田順正氏はこのような見解を示している[7]。

「安いニッポン」が進行することは、先ほどの「貧しいシングルマザー」のようなワーキングプアが社会にあふれかえるということだ。一方、海外に目を移せば、賃金が上がって経済もどんどん成長している。このような内外格差が激しくなると、どういふことが起きるのかというと、「出稼ぎ日本人」が増える。つま

り、賃金の低い自国に見切りをつけて、待遇のいい国へと渡っていくのだ。(窪田順正 IT MEDIA ビジネス「安いニッポン」の本当の恐ろしさとは何か「貧しくなること」ではない 2021, p.2)

日本の賃金が低い中で出稼ぎ日本人が増えると、日本人の命や人権が海外で脅かされてしまう。これは日本人のワーキングホリデーの現状をみれば明らかである。ワーキングホリデーとは海外旅行とは違い長期滞在の許されるビザで、18歳から30歳の日本国民なら日本とワーキングホリデー協定を結んだ外国に1～2年の滞在許可が下り、その間に就学、旅行、就労と生活することが許されているとても貴重な制度である。[9]東洋経済オンラインによると、オーストラリアにおいて正規の仕事に就くにはネイティブ並の英語力が必要であり、ワーキングホリデーを利用する日本人の若者は不法な労働であるキャッシュジョブに就くケースが非常に多いという。このことから賃金が低いまま変わらない日本において出稼ぎの日本人はどんどん増えていくが、英語力が伴わずに海外で命や人権が脅かされる可能性があることがわかる。

3.2 海外における英語の需要と英語教育について

シンガポールは人種の多様性があることから、共通語である英語を日常生活で使うため英語が必須である。そんな高い英語の需要を支えるシンガポールの英語教育の特徴は、英語以外の科目も英語で授業をするという所である[3]。英語の授業でしか英語を使わない日本の公立学校と比べると、圧倒的に英語を使う機会が多く、その分英語力が高いことが考えられる。

次にマレーシアについて、マレーシアは人口のうち、マレー系約70%(先住民15%を含む)、中華系22%、インド系7%、と人種の多様性がある[4]。よって、シンガポールと同様に共通語としての英語が必須であり、英語の需要が高いといえる。しかし、マレーシアの英語力が高いのは過去の歴史から19世紀から20世紀前半までイギリスの植民地であったためともいえるため[5]、厳密に日本と比較できるわけではないことを念頭におかなければならない。それでも、後の世代が英語を話せるということは(実際に2.1で示したEF英語能力指数世界ランキング2020では上位を獲得している)英語教育について学ぶところがあると考えている。

マレーシアでは小学校一年生から週5時間、中学校・高等学校では週3時間が必修になっており、中学校・高等学校では数学と生物の授業を英語で行っている[6]。高校の英語の授業より小学校の英語の授業の回数の方が多いことから、マレーシアでは英語の授業は極めて大切で、また、幼少期から英語を学び始めることも大切であることがわかる。

最後に韓国について、韓国における人種の多様性は日本と似ているが、日本と違うのは、韓国は激しい競争社会で有名であり、日本以上に英語は競争を生き抜く上で必要不可欠なものとして考えられているということである[6]。このことから韓国には非常に高い英語の需要があるといえる。そんな高い英語の需要をもつ韓国の英語教育は小学3年生から始まり、小学校3、4年生で週2時間、5、6年生で週3時間授業がある。日本が学ぶべき視点として3つの視点(英語教育環境、教員、教育内容・方法)を辻伸幸氏は述べている[6]。また韓国の英語教育ではICT教育が取り入れられている。教室にはパソコン、プロジェクター、電子黒板が揃っており、ICTを駆使して、

例えば小学校の英語教育では、視覚的、聴覚的に英語を苦手に思わないような工夫がされている。さらに、韓国には事前に研修を受けた英語の専科教師がいる。[6]。

4.3 国際共通語としての英語

英語を外国語として取り扱う国において、英語教育の中で国際共通語としての英語を意識することが必要である。国際共通語としての英語とはネイティブの発音を習得することが目的ではなく、あくまでも英語を通して互いに理解をし合うことが目的であるとする概念である。この概念はグローバル化が進む中で英語を第一言語とする国が優位に立つことで英語が第二言語である国が搾取されないようにできた概念である。このことから、日本における理想の英語教育は、極端ではあるが、例えば英語の需要が高いから日本語の授業を全部なくすのではなく、日本の文化・伝統・言語を尊重した日本に合わせた英語教育が理想の英語教育であると考えられる。

4. まとめ

日本における英語の需要が上がれば英語力も上がるという仮説を検証した。まず、日本における英語の需要は顕著であるということが調査でわかった。これから日本人の出稼ぎが増えていくことが予想されるが、英語力が伴わず、出稼ぎに行った国で人権や命が脅かされる危険性があると考えられる。よって人権や命を守るために英語学習の必要性、需要があるという結論に至った。しかしながら、この結論には更に多くの出稼ぎ日本人についてのデータをもって指し示すことが必要である。

次に英語の高い需要は高い英語力につながることもわかった。シンガポール、マレーシア、韓国、三カ国の英語教育を調査して3カ国それぞれに民族が多様であったり、競争社会であったりなどの英語の高い需要があり、その英語の高い需要に3カ国の英語教育は高い英語力を子どもたちに供給して支えている。これらのことから日本においても英語学習の必要性を知ることで英語の需要は高まり、英語力も上がるという結論に至った。

最後に日本における理想の英語教育について、3カ国の英語教育を調査した結果、日本にも取り入れるべきものは2つあると考えた。1つ目は英語以外の科目でも積極的に英語を使うことである。1つの教科だけでなく2つ3つの教科で英語を使うことで英語の使用頻度が多くなり、高い英語力につながるとシンガポールの調査から考察した。この教育方法を導入するにあたって、日本語の教育にも同様に力を入れることが重要である。母国語の学習が疎かになると、母国の言語が廃れ、大切な歴史、文化が継承できなくなる可能性が高い。そこで、日本における理想の英語教育を目指すために理数系の数学や理科などは英語で行い、国語や社会は日本語で行うといったことが重要であると考えられる。2つ目は小学校における英語専科教師の養成である。日本の小学校では担任の先生が英語の授業を担当している。しかし、韓国では英語の専科教師が授業を担当している。これはマレーシアと韓国の調査から幼少期からの英語教育が大切であるとされているからだ。幼少期から英語の苦手意識を作らないように、日本でも英語の教師の研修を設けて小学校の英語専科教師を養成することは英語力を高めるにあたって重要なことであると考察した。

これらの2点の、理数系の科目における英語使用、英語専科教師の養成を日本に取り入れることで英語力は上がるのではないかという結論に至った。さらに日本における理想の英語教育を目指すにあたって教師側も生徒側も英語が国際共通語であることを認識することが必要である。

5. 今後の課題

日本の英語教育について歴史など様々な観点から、さらなる分析が必要である。また、英語の需要についてはワーキングホリデーや円安の影響に関するデータがあるが、それだけでは今後の日本における英語の需要を予測するには十分ではない。ゆえに多くのデータから、英語の需要と英語力向上の関係性について多角的に検討していく必要がある。

参考文献

- [1] EF English Proficiency Index (2022)「世界最大の英語能力指数ランキング」
<https://www.efiapan.co.jp/epi/> (最終閲覧日 2023年2月14日)
- [2] 荒木詳二 (2014)「日本における英語帝国主義—英語帝国主義と外国語教育」群馬大学社会情報学部研究論集 第21巻 53-72頁
- [3] Education Destination “School Education System In Singapore”
<https://educationdestinationasia.com/essential-guide/singapore/school-education-system-in-singapore> (最終閲覧日 2023年2月14日)
- [4] 外務省 (2023)「マレーシア基礎データ」
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/malaysia/data.html> (最終閲覧日 2023年2月14日)
- [5] JALT (1998) “Issues in Teaching of English in Malaysia”
<https://jalt-publications.org/tlt/articles/2432-issues-teaching-english-malaysia> (最終閲覧日 2023年2月14日)
- [6] 辻伸幸 (2021)「韓国の小学校英語教育から日本が学ぶべき視点」和歌山信愛大学教育学部紀要 第2巻
- [7] ITmedia ビジネス (2021)『「安いニッポン」の本当の恐ろしさとは何か「貧しくなること」ではない』
https://www.itmedia.co.jp/business/articles/2106/30/news055_2.html (最終閲覧日 2023年2月14日)
- [8] 東洋経済オンライン (2017)『「出稼ぎ日本人」も無縁じゃない豪州のひずみ』
<https://toyokeizai.net/articles/-/166615?page=3> (最終閲覧日 2023年2月14日)
- [9] 日本ワーキングホリデー協会「ワーキングホリデーとは」
<https://www.jawhm.or.jp/step1.html> (最終閲覧日 2023年2月14日)